

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0329
施設名	多摩保育園
施設所在地	東京都昭島市東町5-1-40
法人名	社会福祉法人多摩育児会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

カメラマンになってみよう

<テーマの設定理由>

日頃、園で飼育しているリクガメのかめきちを、違った目線で見てみよう！と始まった観察会。上から見たり横から見たり、前から見たり。角度の違いで見え方が変わる事に気づきました。また、カメラマンの方が撮影にきた際に大きなカメラに興味を持ちました。今回は一眼レフのカメラでリクガメをはじめとした“身近な好きなもの”を被写体として、カメラマン体験をしてみようと設定しました。

2. 活動スケジュール

リクガメのかめきちのお世話を毎日行っている。（掃除・餌やり・散歩など）

<カメラマン体験>

3月7日 一眼レフ導入 撮影会

3月10日 フレームに入れて飾る

3月13日 お気に入り写真をコルクボードに飾りつける

3月15日～17日 保護者へ向けた観覧期間

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

用意した物…

- ・デジタル一眼レフ16台
- ・フォトフレーム32個（数種類用意し、選択できるようにした）
- ・コルクボード32枚
- ・コルクボードへの飾り付けようにフェルトボール、型抜きした画用紙、折り紙、ペンなど

子どもが集中して活動が行えるよう、16名ずつで活動した

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ①一眼レフの使い方の導入後、写真の被写体を探し撮影
- ②撮影した写真の中からお気に入りの5枚を選ぶ
- ③お気に入りの選んだ5枚を写真プリントし、その中で最高の1枚を選びフレームに入れる
- ④残りの4枚をコルクボードにレイアウトし、飾り付ける
- ⑤卒園お茶会・卒園式の際に保護者に向けた展覧会実施

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

初めて一眼レフを手にした時は目を輝かせ、一枚撮影するごとに画面で確認し友だちとも共有していた。友だち、リクガメ、保育者、保育室の環境、園庭への景色などそれぞれ好きな被写体を選び夢中になっていた。保育者はカメラの使い方を伝えてからは基本的に見守っていたが、撮影した写真をその都度見せに来る子が多く、楽しさの共有ができた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

本物の一眼レフを子どもが扱うというのはなかなかない経験で、子どもたちは自分の好きなものを周りと共有する楽しさを感じていると同時に、ものを大切に扱う事への意識も高まっているように見られた。また、肖像権の話も伝える事で、なんでも写真に写していいわけではないことも知る機会となり、子どもたちも慎重に被写体を選ぶ姿があった。

りじちょう
せんせいも！



ぬいぐるみたちもモデルに

かめきちをとってみよう！



たまほいくえんのかめきちに
モデルになってもらいました

まどからみえる
えんていのけしき



かめきちと
こびとさん



カメラマンたいけんをしました！

プロのカメラマンの おはなしをきいたよ

カメラのもちかたや
しゃしんのとりかた、
とったしゃしんの
つかいかたやきまりを
おしえてもらい
ました。



かっこいい
スニーカー

いちがんレフカメラの さつえいにちょうせん！

ほんもののいちがんレフ
カメラをつかいました。
おしごとにつかうカメラは
たいせつにただしく
つかわなくては
いけません。



こどもの「すくすくわくわく」をおうえん

いろんなしゃしんを とってみたよ

けしきやかめきち
おともだちやせんせい
にんぎょうやものなど
いろんなしゃしんを
たくさんとってみました。

かめきちのおうち



ここでごしょうかいしているしゃしんは
すべてえんじたちがさつえいたものです

おきにいりの 1まいをはっぴょう

とっておきの1まいは
フレームにいれて
しゃしんでん！
ほかのしゃしんも
コルクボードに
はってコラージュして
さくひんにしました！



みんな
カメラマン

サッカー
ボール



カメラマンのせんせい



たまほいくえん



たまほいくえん・年長さん

カメラマンたいけんのねらい

興味を持つ

「写真」や「カメラ」に興味を持つ

講師は園にもよく来ているプロのカメラマン。いつもは撮影してもらう側の園児たちが、今度は自分たちが撮影するカメラマンに挑戦。カメラの使い方や撮影の仕方だけではなく、撮影した後の写真の取り扱い方法（肖像権）についても簡単に説明（わかったかな?）。「カメラ」や「写真」について、興味を持ってもらうことができました。

体験する

一眼レフカメラで本物の体験をする

今は、スマホなどで簡単に写真を撮ることができる時代ですが、あえて本物の「一眼レフカメラ」を使うことで、仕事に使う「高価な機材」を大事に取り扱うことの大切さを体験します。首からしっかりカメラをかけて、手でカメラを構えてレンズを調整し、シャッターを押して…と、緊張感のある作業だからこそ味わえる達成感や、写真撮影の面白さを味わいました。

表現する

自分が撮影した写真を作品にして展示する

それぞれ撮った写真を「コンタクトシート（一覧プリント）」にし、その中から自分のお気に入りの写真を5枚程度セレクトしてもらいました。たくさんある写真から自分で選んだ1枚は、その子自身の内面にある「好き」や「いいな」、独自の「個性」の現れ（表現）でもあります。そのうちのとっておきの1枚は「フレーム」に入れて、ロビーで発表展示を行いました。

感じる

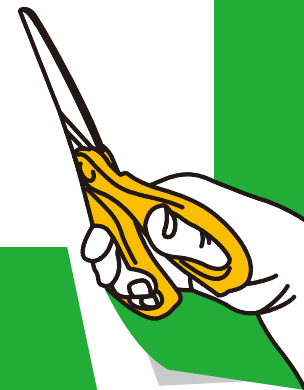
ひとりひとりの表現の違いを感じる

さらに残りの写真数枚は、一人ずつ「コルクボード」にシールやモール、折り紙などで飾りつけてコラージュ作品にしました。中にはお友達や先生、ご両親への感謝の気持ちを写真に添えて書く子も。完成後のみんなの作品を見比べながら、同じ時間に同じように撮影したのに、「人によって表現の違いがあること」「違うことの面白さ」を感じてもらうことができました。



講師：小林未央(atelier Mio 子ども支援士)

カメラ協力：公益社団法人日本写真協会(子ども向け写真・映像教育の推進事業)



たまほいくえん